大　会　次　第

1. 開会の辞
2. 会長基調演説
3. 決　　議
4. 厚生労働大臣への決議の手交
5. 厚生労働大臣挨拶
6. 政党代表挨拶
7. 特別企画
8. 閉会の辞

健康保険組合設立100周年記念特別企画

オープニング
「健康保険組合誕生100周年記念映像」を上映

記念セレモニー
① 100周年健保組合の紹介
② 健保連会長挨拶
③ 100周年代表健保組合挨拶
④ フォトセッション

対話形式セッション
「ポスト2025」健康保険組合の提言への理解を深めるための対話形式のセッション

「ポスト2025」健康保険組合の提言

3 加入者（国民）の皆さまへの つのお願い

①医療費のしくみや国民皆保険制度の厳しい状況についてもっと知ってください
②自分自身で健康を守る意識をもってください。健診をきちんと受けてください
③軽度な身体の不調は自分で手当てするセルフメディケーションを心がけてください

5 健康保険組合が取り組む つのチャレンジ

①多様な働き方に対応した保健事業の充実強化
②かかりつけ医との連携
③健康保険組合の発信力強化
④データ分析強化による加入者サービスの充実
⑤デジタル化による健康保険組合業務革新

4 健康保険組合の つの約束

①各種健診を受診しやすいよう、こまめに働きかけます
②一人ひとりの健康状態に合わせた丁寧な保健指導を実施します
③予防・健康づくりに役立つ情報を提供します
④職場環境に応じた予防･健康づくりに取り組みます（事業主との連携）

国に対して実行、整備を求めること

①負担の公平性の確保
②保険料と公費（税）の負担構造の見直し
③保険給付の見直し
④医療提供体制の改革
⑤医療 DX 施策の強化
⑥国民への周知・啓発

「ポスト2025」健康保険組合の提言、今こそ実行の時！

100年の歩みを礎に、次世代へ皆保険をつなぐ



開催日時　令和 8 年10月20日（火）
11：45～15：00

開催場所　東京国際フォーラム・ホールA
東京都千代田区丸の内3-5-1

決議

我が国では、少子高齢化と人口減少が急速に進み、制度を支える現役世代が減少する一方、高齢化や医療技術の高度化等により、医療費は今後さらに増加することが確実である。団塊の世代がすべて75歳以上となった2025年を越えてもなお、現役世代に過度に依存した負担構造は解消されていない。増加する高齢者医療への拠出金に加え、少子化対策の財源まで保険料に求め、現役世代にさらなる負担を課すことは、もはや限界である。このままでは、現役世代の負担が一層増大し、健康保険組合の財政基盤が弱体化するだけでなく、国民皆保険制度の持続可能性そのものが損なわれかねない。

国民皆保険制度は、誰もが必要なときに必要な医療を受け、健康で安心して暮らすことのできる社会を実現するための重要な基盤である。これを次世代へ確実に引き継ぐためには、国民の理解と納得のもと、負担能力に応じて全世代で公平に支え合う仕組みへ転換を進めるとともに、保険料と公費の役割分担を見直し、社会保障制度全体の持続可能性を確保していくことが重要である。

こうした認識のもと、我々は「『ポスト2025』健康保険組合の提言」を取りまとめた。提言は、制度を取り巻く危機と改革の必要性を共有し、健康寿命の延伸、社会全体のウェルビーイングの向上、将来世代の負担軽減を目指すものである。提言に掲げた改革については、先送りを許さず、速やかな具体化と着実な実行が求められる。

国には、現役世代に偏重した負担構造の是正に向け、保険料と公費の役割分担や保険給付のあり方の見直しを着実に進めることを求める。また、高齢化の進展に伴い増大する高齢者医療については、医療・介護の連携強化や医療資源の適正配置を進め、医療の質を確保しながら効率化を図ることが必要である。さらに、持続可能で効果的・効率的な医療提供体制を構築するためには、医療DXの推進が不可欠である。電子カルテ情報の標準化や全国医療情報プラットフォームの整備を加速し、医療・介護・保険者等を含めたデータ連携基盤を早期に構築すべきである。

2026年は、最初の健康保険組合の設立から100年となる節目の年である。健康保険組合は、これまで労使の連携のもと加入者の健康と安心を支え、国民皆保険制度の維持・発展に貢献してきた。今後も保健事業の充実や保健・医療データの活用、業務のデジタル化を進め、加入者一人ひとりの健康とウェルビーイングの向上に貢献するとともに、保険者機能のさらなる発揮を通じて、持続可能な医療保険制度の実現を支えていく。

100年にわたり培ってきた経験と実績を礎に、提言の実現に向け、今こそ実行の時である。我々は一致団結して行動することを宣言し、組織の総意をもってここに決議する。

一、国民皆保険を堅持し、持続可能な社会保障制度を実現
一、「ポスト2025」提言の実行で築く制度の未来
一、医療DXの推進による医療の質向上と効率化
一、加入者の健康を守り支える健保組合の機能と役割の強化

令和８年10月20日
令和８年度　健康保険組合全国大会

「ポスト2025」健康保険組合の提言、今こそ実行の時！
―100年の歩みを礎に、次世代へ皆保険をつなぐ―

スローガン

▶ 国民皆保険を堅持し、持続可能な社会保障制度を実現

国民皆保険制度は、誰もが必要な時に必要な医療を受け、安心して暮らすことのできる社会を支える重要な基盤である。人口減少や少子化の進行により制度を支える現役世代は減少する一方、高齢化の進展や医療技術の高度化により医療・介護ニーズは増大し、医療・介護人材の不足も一層深刻化している。

こうしたなかで、皆保険制度を将来世代へ確実に継承していくためには、高齢化対策と少子化対策を同時に進め、かつ、働く世代が賃上げ効果を実感できるよう現役世代の負担軽減に取り組まなければならない。国を挙げて国民の理解と納得のもと安心できる持続可能な社会保障制度を実現すべきである。

▶「ポスト2025」提言の実行で築く制度の未来

健保連は、国民皆保険制度を次世代へ確実に引き継ぐため、「『ポスト2025』健康保険組合の提言」を取りまとめ、制度の持続的安定と将来世代の負担軽減に向けた改革の方向性を示した。今こそ、改革を前に進めるときであり、先送りせず、提言で掲げた改革を加速させるべきである。

現役世代には、高齢者医療への拠出金に加え、子ども・子育て支援金制度による新たな負担も加わった。もとより少子化対策は重要であるが、その財源を保険料に求め、現役世代にさらなる負担を課すことはもはや限界である。とりわけ、後期高齢者の現役並み所得者に対する公費負担がなく対象範囲を拡大すると現役世代の負担増となる構造に象徴される高齢者医療制度については、年齢区分や保険料と公費負担割合のあり方を含めた見直しを早期に進めるべきである。

▶ 医療DXの推進による医療の質向上と効率化

医療ニーズの増大と医療・介護人材の不足が見込まれるなか、限られた医療資源を有効に活用し、必要な医療を安定的に提供していくことが重要である。特に高齢者を中心に、医療・介護の連携強化や医療資源の適正配置を進め、医療の質の確保と効率化を両立させる必要がある。これらの課題に対応するためには、医療DXを推進し、持続可能な医療提供体制を構築しなければならない。

国には、電子カルテ情報の標準化や全国医療情報プラットフォームの整備を加速し、医療・介護・保険者等を含むデータ連携基盤の早期構築を求める。医療提供側においても、DXの進展を踏まえ、地域における医療機能の分化・連携を進め、効率的で質の高い医療提供体制の構築に取り組むべきである。

▶ 加入者の健康を守り支える健保組合の機能と役割の強化

働き方の多様化や就業者の高齢化など、加入者を取り巻く環境は大きく変化している。

こうした変化に対応するため、健保組合は、事業主と連携し、保健事業や予防・健康づくり、セルフメディケーションの推進、重症化予防の充実に取り組むとともに、保健・医療データの活用、加入者サービスの向上、業務のデジタル化を進めていく。さらに、加入者一人ひとりの健康とウェルビーイングの向上に貢献するとともに、労使が一体となって支える健保組合の価値と存在意義を高め、将来世代へ持続可能な医療保険制度の実現に向けて、保険者機能を一層発揮する。

そのため、健保組合が加入者の健康を守り支える役割を十分に果たせるよう、国には、保険者機能の発揮に必要な制度整備と財政支援の充実を求める。